

# 空き缶に夢を託す

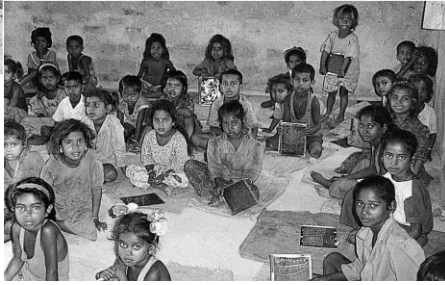
## Ⅱネパールに学校を建てる会Ⅱ

夢を持ってないネパールの子どもたち

「青年会議所の交流で、ネパールを訪れたのですが、幼くして『命』を失う子どもたちの多さに驚きました。」と語るのは、ネパールに学校を建てる会「代表の中山誠さん（吉方温泉二丁目・四十五歳）。和菓子のお店を経営するかたわら、平成七年十月か



レンガ造りの学校が建てられました

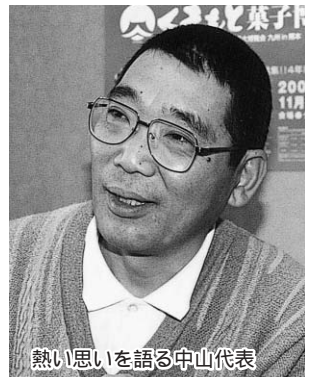


真剣に学ぶネパールの子どもたち

ら活動を行っている。ネパールは、古くから「カースト制度」の慣わしがあり、職業を自由に選択することは難しく、結婚も占いなどで決められる場合も多いとのこと。そのため、生きていくための知識以外には必要ないとされ、就学率は驚くほど低い。学校すらない地域もあるという。行きたくても行けないのだ。たとえ学校に通ったとしても、十歳を過ぎると、ほとんどの男の子は生活のために就労させられ、女の子は結婚させられるとのこと。

「この国の子どもたちは『夢』を持ってないのです。何とかしたい、子どもたちに間違った風習などにとらわれないうちの最低限の知識を身につけて欲しい、夢を持って欲しい」と思い、学校を建てることを決心して…」と中山さんは熱い

思いを語り続けた。



熱い思いを語る中山代表

学校づくりは子どもたちの手で

ネパールでは、日本円約百五十万円で学校が建つ。中山さんは、ネパールの学校づくりを日本の子どもたちの手で行おうと考えた。そして「空き缶」を回収し換金することで建設資金を得ることに。

中山さんは、まず自分の子どもが通う日進小学校に呼びかけ、この活動を始めた。すぐに湖南小学校・美和小学校へと広がり二年半で念願の学校が建てられた。今では、市内五つの小学校（世紀・久松・美保南・浜坂・城北）のほか県の内外へも活動の輪が広がっており、現在三校の学校が建てられている。

感動がいっぱい

この活動は、子どもたちに



子どもたちは空き缶を集めています（日進小学校）

すばらしい影響を与えている。それは、一年生から六年生までが共通の目的を持ち達成することで、すべての児童が「感動」を共有し、一人ひとりに「自信」と「誇り」が生まれていることだ。

「この活動が続けられるのは、『感動』ですね。ネパールと日本の子どもたちの笑顔はもちろん、この活動に協力していただいた多くの人たちとのふれあいの中にも、たくさんさんの感動があります」と中山さんの顔がほころぶ。

中山さんの夢は、子どもたちをネパールに連れて行き、子どもたちが建てた学校を見せること。そして、ネパールと日本の子どもたちの交流。中山さんと子どもたちの活動は感動がいっぱいだ。